

2005.1.1  
No.41

とりの上にも人の上にも  
同じだけの空



何を  
みつめるか  
2005年の  
はじまりに



# やませみ

てんらんざん とうのやま  
天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

◎新年号特別企画  
守る会は今年で10年  
活動のこれまでこれからをお伝えします  
「守る会のはじまり」  
「これまでの活動」  
「県民休養地構想とその後」  
「里山としての天覧山・多峯主山」  
「東やつ“ホトケドジョウの里”から」  
「日よう日ふる里散歩の活動」

- 奥武蔵環境講座のおしらせ
- 日よう日ふる里散歩のおしらせ
- 編集後記

## 編集後記 FROM EDITOR



禁煙して早一年余が経過した。三〇年近く付き合ってきた煙草である。辛くないわけがなかったが縁が切れていったのだろう、すっぱりと止めることができた。

感無量である。歯は汚れず、爪の色は紫色からピンク色へと変わってきた。顔色も良くなったようである。火の心配はしなくてすむし、小銭が何時までも財布に残っているのが嬉しい。ある禁煙ソフトで、禁煙時から今日までの私が吸わなかった煙草を計算するとその数は、七七九箱と三本。浮いた煙草代二万三三〇円。延びた寿命五四日二時間三五分となるのだそうだ。まことに目度度い。この浮いたお金は健康のために使おうと思っている。近々自転車でも買おうかと思っている。(ま)



当会では天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふるさと散歩」を開催しています。お気軽にご参加ください。

◆ 一月一日(土)

「初日に祈る山歩き」

○ 集合 能仁寺山門前 午前六時

○ 解散 午前八時半 (弁当不要)

◆ 一月九日(日)

やつ田の新年「作業小屋づくり」

◆ 二月十三日(日)

春に唄う「バードウォッチング」

◆ 三月二三日(日)

やつ田の早春「作業小屋完成」

○ 集合 能仁寺山門前 午前九時半

○ 持ち物 お弁当・飲み物

○ 一月九日と三月一三日のやつ田での作業には、長靴と汚れてもいい服装でご参加ください。

\*各回とも参加費は保険料百円

共催 はんのう景観トラスト

(財) 埼玉県生態系保護協会飯

能名栗支部

## 日よう日ふるさと散歩

一九九五年一月、西武鉄道による巨大団地開発の計画が出されて以来「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けてきました。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

◆ 年会費

一般会員……………二〇〇〇円

ファミリー会員…三〇〇〇円

賛助会員……………一〇〇〇〇円

協力会員……………無料

◆ 会費・カンバ送付先

郵便振替口座

天覧山・多峯主山の自然を守る会

00580・9・16342

## 会員募集中!!

やませみ 41号

二〇〇五年一月一日発行

● 編集・発行

天覧山・多峯主山の自然を守る会

● 事務局/浅野正敏

042(974)1691

埼玉県飯能市柳町18-17

申し込み用紙「やませみ」は

左記にあります。

○ 谷口眼科 ○ 銀河堂

「やませみ」へのご意見をお寄せ下さい。投稿もお待ちしています。

URL=http://tenranzan.room.ne.jp e-mail=tenranzan@room.ne.jp



# 天覧山・多峯主山を守る会

この一年



- 1月25日◇奥むさし環境講座「日本人の食生活と里山の未来」
- 3月24日◇保全のための市民案作成検討委員会
- 4月4日◇守る会総会、および保全のための市民案作成座談会  
30日◇カトリック修道場視察研修会にて天多を案内
- 5月9日◇丸太小屋づくりのための間伐材搬出とやつ田の手入れ作業（以後不定期に小屋づくりとやつ田の手入れは行っている）  
13日・27日◇飯能第一小学校4年の総合学習にて天多の自然について講師ボランティア
- 6月20日◇はんのう市民環境会議総会後の分科会にて、当会の調査活動を主体とした発表を行った
- 7月10日◇間伐材による丸太小屋づくりとやつ田の手入れ作業
- 7月31日～9月21日◇羽生市立図書館・郷土資料館において天覧山・多峯主山自然博物館出張展示（羽生市教育委員会・県立自然史博物館主催の『里山の自然』特別展にて）
- 9月19日◇（財）せたがやトラスト協会より、当会の活動と観察会の視察  
21日◇第1回飯能・名栗エコツーリズム推進協議会準備会が開催され、当会浅野代表が委員に任命される。
- 11月14日◇吾野宿コマ回し大会にて活動紹介パネル展示参加  
16日◇飯能市長・教育長に面会し、天覧山・多峯主山自然博物館展示資料の寄贈を申し入れ、市として受け入れを決定  
19日～26日◇吉田屋呉服店掲示ギャラリーにて活動紹介パネル展示  
27日◇市民ボランティアフォーラムにて活動紹介パネル展示参加

この他に毎月2回の定例会、毎月1回の「ふるさと散歩」（「はんのう市民環境会議」との共催もあり）、会報誌「やませみ」38～40号発行、やませみ編集会議などを実施

## 第8回奥むさし環境講座

### 天覧山周辺・冬の里山・エコツアー

日時：平成17年2月19日（土）

案内講師：駿河台大学 内田康夫教授

～飯能名栗エコツーリズムシンポジウムにおける

モデルツアーとして開催予定～

- ◎ 環境省エコツーリズムモデル事業として、全国13か所のうちのひとつに飯能名栗地域が選出された。地域の自然環境や歴史・文化を、観光という視点で経済に活かしながら、持続させてゆこうとする試みである。

◎実施の詳細は事務局へお問い合わせ下さい。



# 守る会の これまで これから



はじまり

一九九五年、突如天覧山・多峯主山周辺に七二・九haの住宅団地（武蔵丘分譲地）開発の事業申請が西武鉄道より提出されました。それを知り、この大切な自然環境の破壊を危くした人たちが開発変更を求める署名活動を始め、そこから「天覧山・多峯主山の自然を守る会」の活動が始まりました。当会は、二万四千名を超える署名簿を携えて行政や事業者との交渉に何度も足を運びましたが、開発変更が認められなかったことから、市民サイドからの直接請求として「環境保全条例制定案」を飯能市（当時、小山誠三市長）に提出することにしました。郷土の歴史

史と多くの文化を留める緑豊かな天覧山・多峯主山一帯への市民の関心は高く、街頭や戸別訪問で集めた署名は、提出に必要な法定署名数一、二〇六人（有権者数の五〇分の二）を大きく上回り、一五、六〇一人もの署名が集まりました。しかし、残念ながら、市議会では反対意見はなしのまま、賛成少数という理由で否決されてしまいました。ところが、翌年四月、開発事業認可寸前に事件が起こりました。当会会員が開発予定地内に絶滅危ぐ種のオオタカの営巣を発見し、その一週間後にその巣が何者かによつて壊されるといふ事態が発生



オオタカはいつもこんなふうに見ているのかな？  
（バルーンを使った天覧山・多峯主山空撮）

したのです。このことが全国的なニュースとなり、当時の環境庁も動きだし、オオタカをめぐる環境アセスメントの再調査の必要性から、以降の開発着手は延期されたのでした。  
このことにより「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は時間的余裕を与えられ、以来保全に向けて地道かつ根気強い活動を展開していくこととなります。（中面へ続く）

# これまで

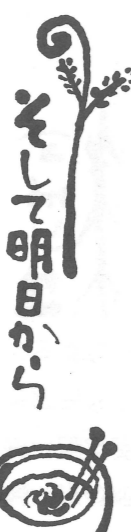
「天覧山・多峯主山の自然を守る会」の発足以来、今年でまる一〇年が経過しました。

この間、当会は会報「やませみ」を発行し、市民へ情報を提供し続けてきました。また、毎月一回、自然観察を中心とした「日よう日ふる里散歩」の実施や、休耕田での稲づくり作業といった地道な活動も続けてきています。更に、年一回開催してきた「奥むさし環境講座」では、地域から地球環境問題までを見据えた視点で学習し、足下の問題を、実践を通して解決して行くことに役立てたいと考えています。

二〇〇〇年からは、一年半にわたり専門家を交えた、市民による詳細な環境調査を行いました。そこで得られた貴重なデータは、『天覧山・多峯主山自然環境調査報告書』としてまとめられました。また、その成果を発表し展示する場として「天覧山・多峯主山自然博物館」を開催し、千名近い入場者に見ていただくことができました。

その他にも、天覧山で伐られた間伐材を活用した「木馬づくり」に参加するなど、商店街や林業家との交流を持ちながら、まちづくりの視点に立った活動にも協力しています。

また、これまでは、市民対行政・事業者といった対立の構図となっていました。が、二〇〇二年市長交代に伴い改善が図られ、市民、行政そして事業者が一緒に考えていく場として二〇〇四年「ほんのう市民環境会議」が発足しました。また、環境省から「エコツアーリズム（自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた）」のモデル地区として全国十三ヶ所の内の一つに飯能市が選ばれたこともあり、着実に保全を進めて行く足がかりが築かれつつあると感じています。



当会では、こうした事業へ積極的に参画すると共に、緑の喪失の危機はなくなっているわけではないことを再認識し、緑のシンボル地である天覧山・多峯主山一帯の自然環境を、市民の誇りとして次代に引き継いでいけるよう、これまでの活動に加え、保全のための具体的な提案を作成するといった活動も進めていこうと考えています。

守る会代表 浅野正敏

## 県民休養地構想とその後

開発を最優先とする高度経済成長の時代、埼玉県は奥武蔵自然公園内に一〇〇〇haもの開発を認可しました。その中の一つであった、西武鉄道による天覧山・多峯主山周辺七二・九haの住宅団地開発は、この計画を危うくする声が市民の間で大きくなったことで、こうした状況を打開する為に、埼玉県環境保護団体協議会と、埼玉県・飯能市・西武鉄道（財）埼玉県生態系保護協会と当会の六者による会談が開催されました。

そして会談を重ねた結果、開地に隣接する「飯能県民休養地構想」を具体化する提案が出され、一九九八年には、「飯能県民休養地自然環境調査報告書」が、一九九九年には、「同基本構想調査報告書（中間）」が埼玉県によってまとめられたのです。

しかし、残念ながらその後「県民休養地構想」は休眠したままとなり、現在に至るまで進展はみられていません。

守る会 浅野正敏

## 里山としての天覧山・多峯主山

私たちは調査期間中、ハイキングコースを外れ、普段は立ち入ることのない谷津田の最奥部や、藪の中に足を踏み入れた。そこには、里山の形跡が残されていた。

緩やかな棚田の畦道、石が積まれた用水路、薪炭に利用されていた雑木林、段々畑の名残、まぐさ場の跡地、木馬道の跡…。確かにここは、生活の糧を得る場であったのだと実感した。貴重な動植物や多様な自然がなぜ今ここに存在するのか、また、今後のこの山の保全と活用方法について考えていく時、このような里山としての土地利用の歴史についても忘れてはいけない。

日常の生活と自然との距離がどんどん遠くなっている今、里山から学ぶことはまだ数多く残されている。また、里山を活用して生きる知恵は、地域のお年寄りの方から継承すべきだろう。

私たちは、調査活動を通してこのような視点も得ることが出来た。



## 日よう日ふる里散歩

「日よう日ふる里散歩」は、この山の魅力を多くの方々に知っていただくべく、毎月一回続けてきた観察会です。毎回一つのテーマを決め、四季折々の里山の姿を様々な視点から見つめてきました。山の動植物についての観察はもちろんのこと、この山の持つ歴史的背景を探ったり、農業や林業との結びつきを考えたり、参加者みんなで俳句の会を催したりと実にバラエティに富んだ観察会です。

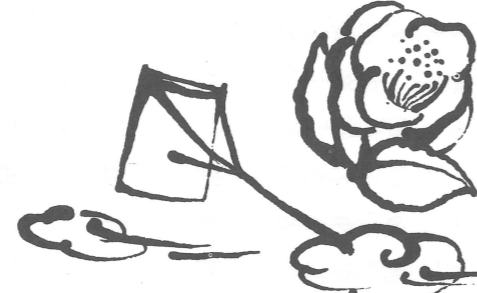
この十年間を振り返ると、参加者とともに山の魅力を分かち合えたと同時に、新しい人と人とのつながりを与えてくれました。そして何より企画、主催する私たちに毎回新たな山の姿を見せてくれることで、活動を続ける原動力を与えてくれたのだと感じています。

守る会 黒住浩次



大人も子どももそれぞれに楽しんだ「自然博物館」

# 守る会の今までのこれから



## 東やつオトケドジョウの里から

諏訪沢入りの「東やつ」は、この周辺で唯一今も耕作されているやつ田のあるところであり、古い遺跡もあるといわれている所です。

ここでやつ田保全の試みを始めて五年目になりました。一年目はため池を作り蓮を植えました。蓮は定着しませんが、このため池で沢山のアカガエル、トンボ、ホタル、メダカ、オトケドジョウ等が育ちはじめました。

二年目より田んぼを作り始めました。子ども達も参加し、田植え、稲刈りなどを楽しみ続けることができました。ただ、四年目の今年は、初めてイノシシが田に入り、稲の収穫はできませんでした。間伐材を使つての作業小屋づくりも今年始めました。来年には草屋根の作業小屋が完成するでしょう。

いろいろな谷津の保全の試みを続けてきましたが、田んぼを含めて、ため池を復元することが、里山の生き物の再生に大きな役割を果たしていることを体験的に知ることができました。これからも楽しく多くの人と共に、自然な汗を流していきたいと思っています。

守る会 早瀬成憲



ひざまで浸かって、東やつで田植え